



### — 読者からの質問③ —

本号においても読者からの質問とその回答について紹介します。今回は、牧草給与の基本的な内容です。

**質問4-1** 空腹によるストレスを減らすために、カイバ以外に馬房に常に食べられる牧草を入れておきたいと思うのですが、疝痛と肥満が心配です。疝痛、肥満になりづらい牧草や給餌方法があればご教示いただきたいです。1日4回カイバをあげており、1回約1.5~2kgのチモシーとペレット飼料を与えています。カイバの間隔は約4~5時間です。1日1鞍約50分、常歩~駈歩までの運動で、運動前後はサンシャインパドックや20×40mの馬場兼放牧場に放牧、馬房にいる時間をなるべく減らし、動くようにしています。

**回答4-1** 1日4回の給与回数や放牧を含めた毎日の運動、馬房内滞在時間の制限など、ほぼ理想的と考えられる管理をされているとのこと、さぞかし愛馬は幸福な日々を送られているとお察し申し上げます。疝痛履歴がある、あるいは太りやすいといった特性の有無は不明ですが、一般的には飼料給与以外の時間帯（とくに夜飼いから翌日の朝飼いまでの時間帯）に自由に摂取できるよう牧草を準備することは、馬のストレスを軽減し、何よりも胃潰瘍の防止に非常に効果のある管理方法となります。胃潰瘍の発生メカニズムや予防については、「愛馬のためのカイバ道場」(vol.8)をご参照ください。

さて、疝痛リスクを軽減する牧草と肥満を避ける牧草には相反する側面があります。前者は消化しやすい、すなわち葉が多く茎部分が少ない（葉部割合が高いと栄養価は高く繊維分が低い）ことが前提となりますが、後者は逆に栄養価が低い牧草を選択することになります。両方の条件をある程度満たす牧草として、アルファルファのようなマメ科牧草（栄養価が高く、質が中程度以下のものは茎が硬い）ではなく、チモシーのようなイネ科牧草を選択することになります。現状ではチモシーが日々給与されているとのことですので、そのチモシーを利用するのが馬も食べ慣れており、もっともリーズナブルな選択であると考えられます。

次に給与方法についてです。馬が好きな時に好きなだけ食べられるよう十分な量を常に用意しておくことが理想ですが、ご指摘のように馬の特性によって確かに疝痛や肥満の心配もありますので、量を決めて定期的に状態を把握することをお奨めします。現状給与量の詳細

は不明ですが、1日の給与量のうち、飼料給与の合間に食べるチモシーも含め、チモシーの摂取量は概ね70%程度（軽運動時の適正比率）に設定します。たとえば、現在の1日あたりの総給与量が8kgとすると、そのうちチモシーが5-6kgを占めるように考えます（したがってペレット飼料は1日あたり2-3kgとなりますが、平均的な体格の成馬であれば大きなズレはないと思われます）。現在の1日のチモシー給与量を1kg×4回=4kgと仮定すると残り2kg程度を飼料給与の合間に与えることとなります。この2kgを夜飼いから翌日朝飼いまでの時間帯に多めに1kg、残り1kgを、朝-昼-夕-夜の各飼い付けの合間3回に0.3kgずつ与える、という方法が考えられます。これを給与方法の基準として設定し、定期的に馬のボディコンディションスコア（「愛馬のためのカイバ道場」(vol.4)をご参照ください）を参考としてペレット飼料を増減することが必要です。また、夜間を含め、カイバの合間に牧草を給与する際には、常に新鮮な水を飲めるようにしておくことも重要です。非常に手間のかかる方法を推奨しましたが、飼料全体に占める牧草の割合を逸脱しないことを最重要視してください。

**質問4-2 (更問)** チモシーは嗜好性が高く、それなりの栄養価があり給餌しやすいのですが、嗜好性が良すぎて早食い気味に感じています。カイバの間に与える牧草で、オーツヘイカトルフェスクを候補に考えているのですが、与えても大丈夫でしょうか。

**回答4-2** 飼い付けの合間に与える牧草として、チモシー乾草に代えてオーツヘイやトルフェスクを与えてもまったく問題はありません。そのことによって、採食速度を制限できる可能性も大きいと思います。ただ、オーツヘイは品質にバラツキが大きいので注意が必要、トルフェスクはエンドファイトと呼ばれる菌に感染していることがあり、それを食べた家畜が中毒を起こすことがあるとされていますが、飼料用として輸入されているものは安全と考えられます。馬が食べ慣れていない場合は、念のため前回提案させていただいた量よりも少量から与え始めるようにすることをお奨めします。いずれにしても、飼料給与の合間に牧草を与える管理方法は推奨され、また牧草種を変更することによって必ずしも栄養摂取量が低下するとは限らないので、馬体の肉付き具合を確認するためにボディコンディションスコアを定期的に測定することは重要です。